図書館員が選ぶこの一冊 76

『源氏物語　紫の結び（一）』
理論社　荻原 規子／訳

　帝に特別愛された薄幸の女性・桐壷から生まれた光源氏。幼い頃に母を亡くし、母に似ているという父の新しい妃・藤壷の宮に思いを寄せる。叶わぬ恋に悩む日々、ある山里で藤壷の宮に似た面影の少女を垣間見て思わず涙があふれた。紫の上との出会いであった。

　54帖からなる長編を読破しようとして、早々に挫折する人は多いだろう。「少しでも楽に読み、あらすじではなく原典の良さを知ってほしい」という訳者の思いから、藤壷の宮や紫の上との関係性を軸に帖（章）を再構成した新しい源氏物語。シリーズ3部作。